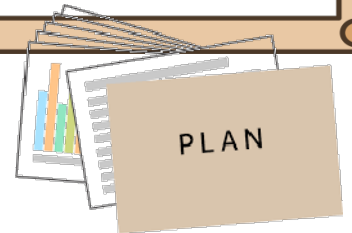


和地ひとみレポート No.371

公表された東大和市実施計画（令和3年度～4年度）
わかりやすく改善、工夫されたが・・・



■来年度からの実施計画

…行財政運営には“住民福祉の向上を実現するため”の中長期的な視点で体系的に作る大きな目標や方向性が必要です。東大和市においても、構想期間を20年とする『基本構想』を最上位の都市像とし、その実現のために策定される計画期間を10年間とする『基本計画』、そして『基本計画』の実行性を確保するために施策の内容を3年単位で具体化した『実施計画』を策定し、それに基づき行財政運営を行っています。そして、『実施計画』については、3年間を計画期間としながらも、より現実的なものとするために毎年見直しを行います。

…今年も来年度からの実施計画が11月13日に公表されましたが、今年公表された実施計画は令和3年度～4年度と2年間のものとなっていました。その理由について市は「これまで実施計画では、今後3年間の主要事業や財政収支の見直し、財源確保の取組み等について、毎年度見直しをして策定してきた。しかし令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言の発令に伴い、実施計画策定の時期に職員の出勤が制限され、全庁的に優先順位をつけた業務の遂行を求められたことや、その職員体制の中で新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策など新たな業務に対応することが求められたことなどから、毎年度行っている実施計画の見直し作業が困難な状況となった。」とし、今回の公表された実施計画の主な内容については下記のとおりとされました。

【令和2年度実施計画の主な内容】

- ①主要事業及び経常的財政収支(通常の行政運営で必ず行わなければならない事業と通常入ってくる市の収入の収支)については、昨年度作成した実施計画(令和2年度～4年度)に掲載した内容を引き続き掲載した。なお、一部の事業について、金額の時点修正をおこなっているものもある。
- ②掲載した主要事業は、今後、予算編成作業において、実施の可否を含めた精査を行う。
- ③市財政の現状の記載内容については、見やすさ、わかりやすさの向上を図るため、内容の見直しを行った。

…①に書かれている“金額の時点修正”を行っている事業について確認したところ「東大和市立学童保育所運営委託事業」の1事業のみ(前年度より約1,000万円/年減額)で、その他の事業には変更はありませんでした。また、②の内容は“実施計画には計上したが、予算編成の時点では実施しない可能性もある”とも読み取れるため、今年度公表された実施計画については「実施をするかどうか確定していないが、予定している実施したい計画」ともいえると思います。

…また、③の“見やすさとわかりやすさ”という点については、毎年実施計画の最後に示される「市財政の現状」の部分が大きく変更、改善されました。通常は様々な財政指標について文書とグラフなどで示されていましたが、今回はA3という大きな紙面を使用し、様々な指標の関連や、その指標が示す意味や市の認識、また「億単位」の様々な決算額を「万単位」で示し、家計で言うところの支出の種類で表すなど、より身近な感覚で市財政状況を理解できるような工夫もされていました。

…さらに、東大和市の財政状況が近隣他市と比較してどのような状況なのかがわかるよう、多摩26市の平均値と東大和市の決算値を比較したような分析も加えられたことにより、今後、東大和市はどのような工夫や努力をしなければならないのかということもわかりやすく示されたものとなっています。

■ここ近年で最も厳しい財政状況

…東大和市の直近(≒最新)の財政状況を確認できるものは昨年度の決算です。その結果や内容から今後の見通しや予算を立てるのですが、昨年度の“実質単年度収支”は5年ぶりに赤字という結果になり、その赤字額は4億2,600万円。前回の実質単年度収支が赤字だったのは、平成26年度決算で約4,200万円の赤字だったため、昨年度の実質単年度収支の赤字額は前回の約10倍となっています。

◆実質収支＝歳入総額－歳出総額

◆実質単年度収支＝実質収支から前年度繰越額、基金(≒貯金)の積み立てや取崩しなどの要素を控除したもの

…また、財政構造の弾力性を表す“経常収支比率”についても過去10年と比較しても最悪の結果の96.6%となり、前年度より2.2%もアップしてしまいました。

(過去10年で最悪だった数値は平成21年度の95.7%)この経常収支比率は市税や国や東京都からの交付金など経常的に入ってくる収入に対する経常的支出(人件費や扶助費など経常的に必要な経費)の割合を示すもの。経常収支比率が高いと、普通の事業以外に何かを行う余裕がないということになり、新規事業や道路や学校、公園などの整備といった特別な事業＝投資的業務などのために使用する財源が少なくなっているということになります。そして、市の説明によると昨年度の経常収支比率が上昇した主な要因は

- ①包括施設アンドン管理業務委託料の増
 - ②納税管理及び聴取補助等業務委託料の増
 - ③下水道事業と介護保険事業特別会計への繰出金の増
 - ④小平・村山・大和衛生組合負担金の増
- とのことでした。

(裏面に続く)

■今後の見通しと取組みの成果は

…今回、公表された実施計画の歳入見込の市税については、固定資産の評価替に伴う減等を見込んでいるものの、その他の点については策定時点における制度等に基づき見込んだとのこと。また、歳出については、主に公債費（≒借金の返済）、高齢化社会の進展に伴う特別会計への繰出金の増額を見込んだものの、その他の経費は必要最小限の額としているとのこと。その結果、令和3年度から令和4年度の2年で、東大和市は約17億1,200万円の一般財源が不足する見通しとなっているとのこと。そのうえ新型コロナウイルスの影響により、今後、新たな財政需要の増加や、さらなる大幅な税収の減も見込まれることから、これまで以上に厳しい財政運営になることを市は予想しています。

…このような状況の中で、市は第5次行政改革大綱推進計画に基づき、民間活力導入の推進による歳入の確保、歳出の縮減等を実施。これについては、前述の“経常収支比率”の増加理由の①と②で民間委託料の増額というマイナス面が挙げられており、民間委託の効果が不明確に感じます。民間に委託しない場合は、その分、市の人件費が増加するとも言えるため、委託経費と効果の比較を明示すべき。特に②納税管理及び聴取補助等業務委託については昨年度の決算では、

◆市税の収納率の向上 98.3%

(目標 96.7%、前年度実績 97.5%) 効果額 1億810万円

◆国民健康保険税の収納率の向上 86.1%

(目標 78.9%、前年度実績 83.2%) 効果額 6,072万円

といった効果も出ているため、一概に経費増加とも言えません。民間委託を今後進めていくという市の方針への理解を得るためにはこれらの民間委託の経費と効果をより明確にすることが必要です。

■多摩26市の平均と比較して

…前述のとおり、今回の実施計画では財政状況のわかりやすさという点で「歳入と歳出の決算状況」について多摩26市の平均と東大和市の数値が比較して明記されています。

【昨年度決算の歳入について】

◆自主財源(住民一人当たり決算額)

単位:円

区分	東大和市	26市平均	差額
地方税	150,688	176,293	△25,605
分担金・負担金	3,205	3,132	73
使用料	1,535	3,568	△2,033
手数料	4,036	3,840	196
財産収入	271	924	△653
寄付金	246	742	△496
繰入金	14,481	11,366	3,115
繰越金	18,141	11,158	6,983
諸収入	2,097	4,479	△2,382
合計額	194,700	215,502	△20,802

◆依存財源(住民一人当たり決算額)

※国や東京都からの交付金や借金など

東大和市:21万904円

多摩26市の平均:18万1029円

…市民一人あたりの歳入決算額は東大和市が39万1,528円、多摩26市平均が39万50円と大差がない中、自主財源割合については、東大和市が49.7%、多摩26市平均が55.2%となっており、東大和市は国や東京都の財源に依存している割合が平均より高い状況です。

…また、住民一人当たりの決算歳出について多摩26市平均と比較すると、

◆東大和市は人件費や扶助費(生活保護費や児童手当等)や交際費などの義務的経費の占める割合が高い

(東大和市 54.3% 26市平均 50.3%)

※特に扶助費の占める割合が高い。

(東大和市 35.7% 26市平均 31.5%)

◆東大和市は投資的経費の占める割合が低い

(東大和市 3.3% 26市平均 9.4%)

という結果に。「限られた予算の中で、投資的事業へ配分する財源が不足しているのに、今後、公共施設等総合管理計画における老朽化対策等によりその増額が見込まれる」と市は今後について危機感を示しています。

■市民と理解を共有した“その先”に

…そのほか、今回の実施計画では「将来見込まれる主な財政課題と負担額」と「新型コロナウイルス感染症の影響見込み」についても明記し、今後の市財政の余裕のなさを従来以上に伝えようとしている感が…。

…そして市は「今後も住民福祉の向上を図るための新たな課題等に対応するための財源が必要で、持続可能な自治体経営のための財政基盤の確立に向けて限られた財源を有効に活用していくことを考えているが、厳しい財政状況は続くものと考え以下の取組みを進める。」としています。

◆行政改革の推進による適正な歳入の確保、歳出の縮減

◆効果的・効率的な事務事業の実施

◆民間活力の導入

◆公共施設等総合管理計画に基づく公共施設等の最適化や予算の平準化

◆優先度を踏まえた事業の縮小や廃止等による事業の最適化

…今回の実施計画は“市財政の厳しい状況をより市民に理解してもらいたい”という思いが強く感じられましたが、それに対する策は今までの延長でしかありません。市民に理解してもらったうえで、どういう部分が市民と協働でき、解決、改善できるのかということも見通しも示すべきだと感じます。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■連絡先

和地 ひとみ事務所

HP: <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102